

2018年度 法科大学院

第1期入学試験問題

3時限

刑法

(論文式)

試験時間 60分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[刑法]

設問

未遂犯の処罰根拠についてありうる複数の見解に触れたうえで、それぞれの見解に従った場合に実行の着手時期をどう判定すべきかについて、次の事例を使いながら論じなさい。なお、事例はすべて利用する必要はなく、また適宜加工してよい。

- ① 結婚相手を死なせて保険金を詐取する計画をもって結婚した妻が、夫に生命保険をかけたうえ、夫を毒殺しようと、農薬を購入する店をネット検索して探し出し、店に出向こうと化粧台の前で化粧を始めた事例（刑法 199 条）
- ② 妻が、チャンスを見て夫を毒殺しようとウイスキーに毒を入れ戸棚の奥のほうに隠しておいた事例（刑法 199 条）
- ③ 妻が毒入りのウイスキー瓶とグラスを、夕食後、ワインは喜んで飲むがウイスキーにはそれほど興味を示さずたまに飲むことがある夫のいる食卓の上に置き、台所に退いた事例（刑法 199 条）
- ④ 事例②で、夫は夜間に戸棚から酒瓶を捜して見つけたら飲んでしまう習慣があることを妻が知っていた事例（刑法 199 条）
- ⑤ 失業した夫が自殺するつもりでウイスキーに毒を入れ、後日飲むため戸棚にしまった一部始終を目撃した妻が、夫婦仲がよくなかったこともあり、そのまま放置し何もしなかった事例（刑法 202 条）

（解答は全て解答用紙に記入すること）